

第6回

シビックプライド × 神奈川県相模原市



解説者

関東学院大学
法学部
地域創生学科 教授
牧瀬 稔
まきせ・みのる



日本都市センター研究室、地域開発研究所研究部等を経て、2017年度から同大学勤務。専門は自治体政策学、地域創生、地域政策、行政学。全国各地のまちづくりや政策形成にアドバイザーとしてかかわる。著書に、『牧瀬流まちづくり すぐに使える成功への秘訣』（経済調査会）等多数。

牧瀬先生が教育×シティプロモーションについて解説した記事が、本誌 2023 年度 Vol.2 に掲載されています。右記の2次元コード、または下記 URL からアクセスしてご覧ください。



https://view-next.benesse.jp/view_section/bkn-board/article16035/

相模原市 概要

神奈川県北部に位置する政令指定都市。東京都町田市や八王子市と隣接する。都心へアクセスしやすい利便性と、5つの人造湖や山間部などの豊かな自然を併せ持つ。7つの大学・短期大学や、JAXA（宇宙航空研究開発機構）相模原キャンパスなどがあり、学術研究も盛ん。市内にリニア中央新幹線の駅を設置予定。

人口 約 72 万 1,000 人 面積 328.91km²
市立学校数 小学校 68 校、中学校 35 校、義務教育学校 2 校 児童生徒数 小学校 約 3 万 1,600 人、中学校 約 1 万 5,800 人
教員数 約 3,400 人

小・中学校への出前授業でシビックプライドを醸成

シティプロモーションにおいて近年、「シビックプライド」*1が注目されています。似た言葉に「郷土愛」がありますが、郷土愛が主に自身の出身地に対する愛着を表すのに対し、シビックプライドは出身地か否かに限らず、その地域に対して抱く「誇り」や「愛着」、「共感」を表現する言葉です。各自治体は、住民を始めとして、その地域で働く人や学ぶ人、訪れる人などのシビックプライドを醸成する施策を通じて、関係人口や交流人口の拡大を図っています。地域と主体的にかかわる人を増やすことで、中長期的には「住み続けたいまち」としての定住促進につなげるのがねらいです。

そのシビックプライドの醸成にいち早く着手した自治体の1つが、神奈川県相模原市です。2018年度の民間調査によるシビックプライドのランキングで151自治体*2中149位という結果を機に、専門部署を設置して市の魅力の発信を強化。青年会議所や観光協会、有志の市民らによる委員会での議論を経て、2021年4月、シビックプライド醸成を目的とした全国初の条例「さがみはらみんなのシビックプライド条例」を施行しました。その後、市のファンサイトの開設やSNSを活用した市民参加型のフォトコンテスト、市内にあるJAXA（宇宙航空研究開発機構）と連携した宇宙関連イベントの開催など、市内外の人々に市の魅力を伝える様々な施策を展開。市の職員が各校でシビックプライドを育む出前授業*3を行うなど、次世代を担う子どもに積極的にアプローチし、子どもとその家族にも市の魅力を広げています。

一連の取り組みの結果、2020年のシビックプライドの総合順位は78位と大きく上昇しました（図1）。都市開発や子育て支援策の充実なども相まって、人口の転入超過数も条例施行前より増加しています（図2）。子育て支援などが手厚い東京都と隣接しているながら転入超過を維持しているのは大健闘と言えるでしょう。

図1 シビックプライド 相模原市の総合順位

年	総合順位	※「シビックプライドランキング調査」(YOMIKO 都市生活研究所)を基に編集部で作成。
2018	149	
2020	78	
2021	76	
2024	71	

図2 相模原市 転入超過数

年	転入超過数(人)	全国順位
2019	1,230	32
2020	2,362	18
2021	3,837	10
2022	3,110	12
2023	2,321	11
2024	2,268	13

全国順位は、転入超過数の多い市町村（東京都特別区部は1市として扱う）としての相模原市の順位。※総務省「住民基本台帳人口移動報告」を基に編集部で作成。

相模原市 インタビュー

市民が市の魅力を十分に知らない現状を打開

市長 本村賢太郎

本市のシビックプライドの総合順位が151自治体中149位という結果は、私にとって大きな衝撃でした。当時衆議院議員を務めていましたが、故郷の危機的な状況を痛感し、それが市長選挙への立候補を決意する1つの契機になりました。

本市は、都心へのアクセスがよいことに加え、神奈川県の水の6割強を供給する5つの人造湖や、気軽に登れる山々、疲れが癒やされる温泉があります。都市と自然のベストミックスが本市の大きな魅力です。さらに、宇宙研究開発に挑むJAXA相模原キャンパスや日本一の大きさを誇る相模の大風^{おおたこ}など、ほかにはない研究・文化もあります。ところが、市域が広いためか、そうした地域の誇るべき宝を十分に知らない市民が少なくないのが現状でした。自治会加入率が低下する中で市民協働を推し進め、市民が主体となって地域を活性化していくためには、シビックプライドの醸成が不可欠だと考え、全国に先駆けて条例を制定、施行することにしたのです。



Web VIEWnext ONLINE

条例制定の経緯や過程、シビックプライドの醸成に向けた出前授業などの詳細を、ウェブサイトでご紹介しています。下記の2次元コードからアクセスしてご覧ください。



* 1 「シビックプライド」は、株式会社読売広告社の登録商標。 * 2 関東圏（1都6県）と関西圏（2府4県）における人口10万人以上の151自治体。

* 3 表紙に掲載した写真は、「総合的な学習の時間」に出前授業を実施した相模原市立小山^{おやま}小学校の様子。